



神谷 慶

▶221◀



かみや・けい 大学時代にロシア留学を夢

見たが、夢のまま終わった37歳。今回紹介した留学生2人が日本文化に関心を持った端緒は、いずれも「プリキョー・ドラえもん」などのアニメ・漫画で、あらためてその影響力を感じさせられた。刈谷通信局

# 留学生「自粛」に負けず

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、刈谷市の愛知教育大は今月末までの前期期間中、原則的にオンラインによる遠隔授業を実施してきた。大学に通えない上と思ってしまう外出もできず、全国の大学生が孤独を抱えがちな中、海を越え愛教大へ来た留学生は自粛期間をどう過ごしてきたのか。勉強はできているか、将来の夢は揺らいでいないか、思い出はつくれているか。留学生一人一人に聞いてみた。

マレーシア出身 陳愛莉さん(18)



学生寮の共用スペースで、日本と中国の学生がゲームを楽しんでいる。4月16日、刈谷市内で

## 寮の仲間と 余暇楽しく

クアランプールを囲むセラランゴール出身です。昨年春に来日して、東京の日本語学校で一年勉強した後、愛教大教育学部の幼児教育選修に入學しました。中学生の時のホームステイで、日本の幼稚園を訪れる機会がありました。母国の園は勉強を重視しますが、日本では比較的体を動かす時間が多く、園児の遊びの過半数が印象的で、日本の幼児教育に関心を持ちました。母が日本人で、父も留学経験があり、日本にはなじみがありました。コロナの感染拡大で、母国では三五月にロックダウン都市封鎖が行われ、仕事も通学も一時できなくなりました。日本でも感染が広

## 思い出の旅 いつか再び

タイ出身 ワチラ・ワリープットソンさん(23)



「さっぽろ雪まつり」の会場で、愛教大の留学生仲間と写真に納まるワリープットソンさん(後列右) = 2月6日、札幌市で

バンコク郊外の自然豊かなチョンブリー県出身です。通訳者になるのが夢で、日本語を上達させようと、愛教大協定校のラチャバット・ラチャナカリン大から交換留学生として昨年十月に来日しました。タイでは三月にコロナの感染者が増え、四月初めに罰則付きの夜間外出禁止令が出された。五月以降の感染者数は抑えられ、今は一日数人程度です。日本にいることを心配する親から「ちゃんとマスクを着けてね」などと、ほぼ毎日電話が来た時期もありました。それでも帰国しようとは考えませんでした。日本人と日々話し、遠隔で授業を旅行に行きたいです。

愛知教育大の留学生 9月現在、12カ国・地域から学部生、大学院生、協定校からの交換留学生37人が在籍。日本の教育制度や授業方法、日本語などを学ぶ一方、刈谷市の夏の風物詩「万燈祭(まんどまつり)」の見学、ホームステイ、学校訪問といった地域交流にも例年参加するが、今年はコロナ禍でいかなかった。思い出づくりとして、7、8月には刈谷の紹介動画の母国語版制作に留学生が協力する企画も進められた。